

1. 月間の収入状況

(1) 収入総額とその内訳

県内大学生の収入総額の平均は、自宅生が6.8万円、自宅外生が11.3万円となった。全国調査と比べると、自宅生は約1万円多く、自宅外生は約1万円少なかった。

内訳をみると、自宅生は、アルバイト収入4.4万円、奨学金1.7万円、親からの小遣い0.5万円であった。自宅外生は、仕送り4.6万円、アルバイト収入3.5万円、奨学金2.8万円となった。

全国調査では、自宅外生の仕送りは4年連続減少し、大学生の生活費が30年前の水準となっているが、県内では、過去3年間横ばいであり、減少傾向はみられなかった。

全国大学生生活協同組合連合会「学生生活実態調査」による大学生の収入総額

(2) 収入項目別の学生割合

「親から小遣いをもらう」という自宅生は、32.6%となり、3人に1人が小遣いをもらっていることが分かった。「親から仕送りをしてもらう」という自宅外生も82.2%となった。仕送りのない学生の割合は40.2%から17.8%と大きく減少したが、全国では、仕送りのない学生の割合は10.5%となっており、県内自宅外生には仕送りのない学生が多いようだ。

また、「奨学金をもらっている」という学生は41.8%であり、そのうち自宅生は、33.7%となった。一方、自宅外生は47.5%となった。

(3) 1年前と比べた収入総額の増減

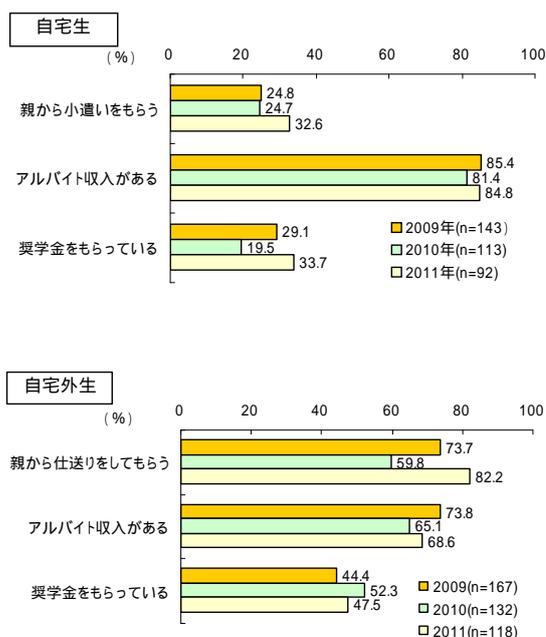
1年前と比較した収入総額は、「増えた」との回答が26.4%となり、「減った」の16.5%を上回り、DIは9.9となった。

図表-1 毎月の収支状況 (n=210)

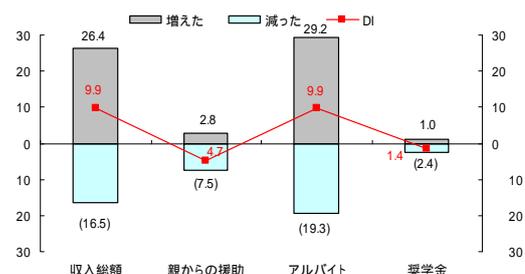
	(単位:万円)		
	全体	自宅生	自宅外生
収入総額	9.2	6.8	11.3
親からの援助 (小遣い・仕送り等)	2.7 [4.6]	0.5 [1.5]	4.6 [5.5]
アルバイト	3.8 [5.1]	4.4 [5.1]	3.5 [5.0]
奨学金	2.4 [5.7]	1.7 [5.1]	2.8 [6.0]
その他	0.2	0.2	0.4
支出総額	9.2	6.8	11.3
家費	2.1	0.0	3.7
食費	1.5	0.9	2.0
学習費(授業料除く)	0.4	0.4	0.5
通信費	0.8	0.6	0.9
ファッション費	1.1	1.1	1.2
娯楽費	1.3	1.4	1.3
貯蓄	1.2 [1.9]	1.6 [2.0]	1.0 [1.8]
その他	0.8	0.8	0.7

(注) 各数字は全回答を平均したもので、〔〕内は「ゼロ」との回答を除き平均したものの

図表-2 収入項目別の学生割合



図表-3 1年前と比べた収入増減 (n=213)



DIとは「増えた」との回答割合から「減った」との回答割合を引いた数値

2. 月間の支出状況

(1) 支出総額とその内訳

県内大学生の支出総額（貯蓄を除く）は、自宅生が5.2万円、自宅外生が10.3万円となった。全国調査と比べると、自宅生は1万円多く、自宅外生はほぼ同じであった。

内訳をみると、自宅生は娯楽費1.4万円、ファッション費1.1万円、食費0.9万円の順となった。自宅外生は、家賃3.7万円、食費1.0万円、娯楽費1.3万円、ファッション費1.2万円となった。自宅外生は生活に必要な「家賃」「食費」「通信費」の支出が多いものの、それ以外の支出金額は自宅生とほぼ同じであった。

(2) 貯蓄する学生の割合

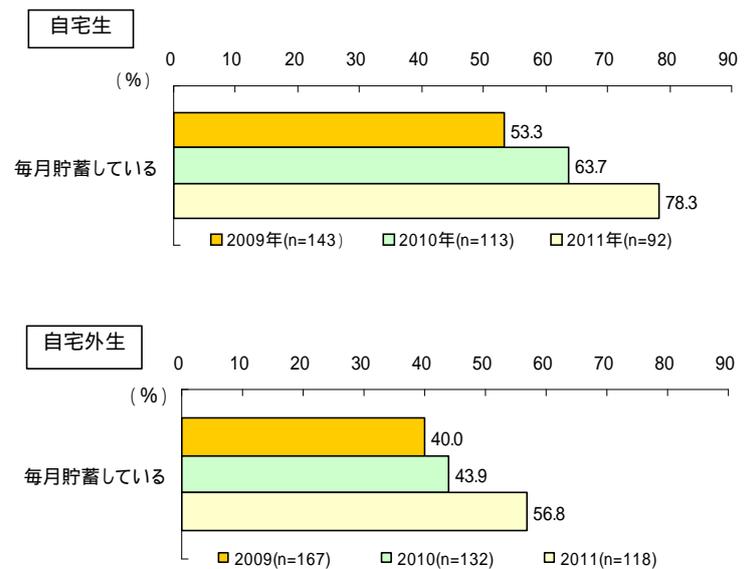
「毎月貯蓄している」という学生の割合は65.7%であった。そのうち、自宅生は前回調査より14.6ポイント増加し78.3%、自宅外生も12.9ポイント増加し56.8%となった。貯蓄する学生の割合は年々高くなっている。また、奨学金をもらっている学生の66.3%が貯蓄をしていた。

実際の貯蓄残高は、「10～50万円未満」が41.5%を占めた。今回のアンケート対象者が3、4回生であったことから、「就職活動のため」や「卒業旅行のため」との意見が複数見られた。就職活動や卒業旅行などに備えて、目的をもって貯蓄しようという学生が多いようだ。

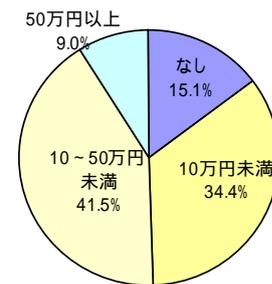
(3) 1年前と比べた支出額の増減

1年前と比べた支出額の増減は、「増えた」との回答が37.3%で、「減った」の8.5%を上回り、DIは28.8となった。内訳をみると、どの費用DIもプラスになっている。

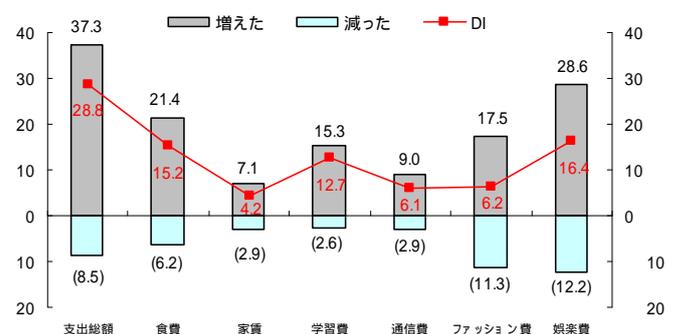
図表-4 貯蓄する学生の割合



図表-5 現在の貯蓄残高 (n = 212)



図表-6 1年前と比べた支出増減 (n = 213)

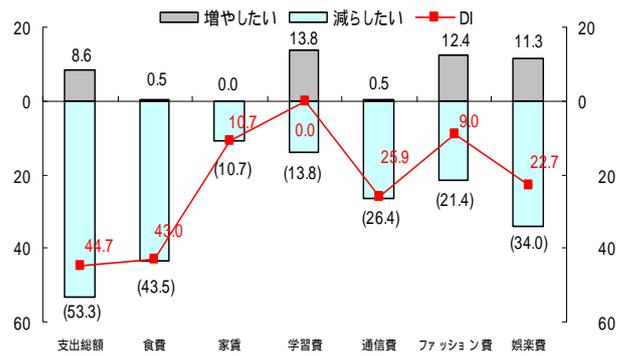


(4) 今後の支出意向

「減らしたい」とした学生が53.3%となり、「増やしたい」の8.6%を大きく上回り、DIは44.7と強い支出抑制意向があることが分かった。

内訳をみると、食費DIが43.0、通信費DIが25.9、娯楽費DIも22.7となった。「食費」や「娯楽費」など、抑制しやすい項目から減らそうとしているようだ。

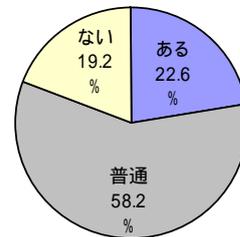
図表-7 今後の支出意向 (n = 213)



3. 生活へのゆとり

「ある」「普通」と答えた学生が合わせて、8割以上を占めた。上級生になって支出が増えている学生が多いようだが、3人に2人が毎月貯蓄をしていることから、多くの学生はそれなりにゆとりを持って生活していると思われる。

図表-8 生活のゆとり (n = 213)



【大学生の年間支出額推計は138.2億円】

愛媛大学(8,412人)と松山大学(松山短期大学を除く5,999人)を合わせると14,411人の学生がおり、大きな経済効果をもたらしている。

今回のアンケート結果から愛媛大学と松山大学の全学生の年間支出額を推計すると、家賃36.3億円、食費25.9億円、学習費6.9億円、通信費13.8億円、ファッション費19億円、娯楽費22.5億円、その他13.8億円で、総額は138.2億円となった。

4. まとめ

今回のアンケート結果から、県内の大学生には、仕送りなどの収入額が減少しているという傾向は見られなかったが、毎月貯蓄をする大学生の割合が顕著に増加していることが分かった。多くの大学生が、就職活動や卒業旅行などのために貯蓄を行っており、計画的にかつ堅実な消費を心掛けているように感じた。

回答者属性

大学	愛媛大学 59.2%	松山大学 40.8%
性別	男性 41.0%	女性 59.0%
学年	3回生 77.8%	4回生 20.8%
	その他 1.4%	
住まい	自宅 43.2%	自宅外 56.8%